

## 令和4年教育委員会 第6回定例会

1 日 時 令和4年6月30日(木) 13時30分開会 15時20分閉会  
(休憩 14時25分～14時30分)

2 場 所 教育委員会庁舎1階 第1会議室

3 出席委員 教育長 林 秀 樹  
教育委員 小 澤 倭文夫  
教育委員 荒 田 純 司  
教育委員 常 見 幸 司  
教育委員 黒 田 仁 美

4 欠席委員 なし

5 出席職員 教育部長 薄 井 洋 仁  
教育部次長 鈴 木 健 介  
学校教育支援室長 大 山 倫 生  
学校教育支援室主幹(生徒指導・特別支援担当) 谷 口 剛  
学校教育支援室主幹(学務担当) 吉 田 健 一  
生涯学習課長 山 澤 亮 司  
生涯スポーツ課長 富 樫 誠  
学校給食センター所長 山 廣 伸 幸  
美術館主幹 星 田 七 重  
教育総務課総務課長 森 田 裕 規  
教育総務課総務係長 松 本 義 雄  
教育総務課総務係 高 橋 ありさ

6 傍聴人 なし

7 議 題

議案第1号 小樽市学校給食センター運営委員会委員の委嘱案

議案第2号 小樽市スポーツ推進審議会委員の委嘱案

議案第3号 小樽市奨学生選考委員会委員の委嘱案

議案第4号 小樽市社会教育委員の委嘱案

協議第1号 おたるスマート7について

報告第1号 第34回おたる運河ロードレース大会の開催結果について

報告第2号 小樽市文化芸術審議会委員の委嘱について

- 報告第3号 公立高等学校配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度）  
及び令和5年度（2023年度）公立特別支援学校配置計画案について
- 報告第4号 新型コロナウイルス感染症に係る今後の対応について
- 報告第5号 2022小樽市制100周年記念事業「画家と娘一岸田劉生<麗子>とともに」に  
ついて
- その他 寄附採納について

## 8 議 事

**教育長** ただいまから、教育委員会第6回定例会を開会いたします。  
本日の会議の議事録署名委員に、小澤倭文夫委員を御指名させていただきます。  
はじめに、お諮りいたします。

「協議第1号 おたるスマート7について」及び、「報告第4号 新型コロナウイルス感染症に係る今後の対応について」は会議規則第13条第1項第5号により、それぞれ非公開とし、議事録については結果のみ記載することとし、最後に審議していただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

**各委員** （異議なし）

**教育長** では、そのように進めさせていただきます。換気のためにも、適宜、5分程度の休憩を入れたいと考えております。  
それでは、「議案第1号 小樽市学校給食センター運営委員会委員の委嘱案について」の説明をお願いします。

### **議案第1号 小樽市学校給食センター運営委員会委員の委嘱案について**

**学校給食センター所長** 「議案第1号 小樽市学校給食センター運営委員会委員の委嘱案」について御説明いたします。

この議案を提出いたしましたのは、3枚目に記載しています「小樽市学校給食共同調理場条例」第4条の規定により設置しております「学校給食センター運営委員会委員」12名のうち、1名の委員に交代がありましたので、この後任を委嘱するためであります。

2枚目の表面が新委員の一覧表、裏面が旧委員の一覧表になっており、交代する委員を太字で表記しております。

交代する委員についてですが、小樽市PTA連合会推薦の内藤道雄委員より辞任願の届出があったことから、後任として、同会より推薦のありました村岡亘氏を委員に委嘱したいと考えております。

なお、任期は、前任者の残任期間である令和5年10月31日までとなります。

以上、御審議のほどよろしくお願ひいたします。

教育長           それでは本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

各委員           (なし)

教育長           よろしいでしょうか。

それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、「議案第2号 小樽市スポーツ推進審議会委員の委嘱案について」の説明をお願いします。

### **議案第2号 小樽市スポーツ推進審議会委員の委嘱案について**

生涯スポーツ課長   「議案第2号 小樽市スポーツ推進審議会委員の委嘱案について」御説明いたします。

小樽市スポーツ推進審議会委員の任期が令和4年7月17日で満了となることから、新たに別紙「委員名簿(新)」にあります8名について委員に委嘱するものです。

委嘱にあたりましては、7名が再任、北海道信用金庫専務理事の佐林委員の後任に、経済界で自らも野球に親しまれ、野球やサッカー、バレーボールなど様々なスポーツ活動を支援されるなど、本市のスポーツ振興に理解のある(株)光合金製作所 代表取締役社長の井上委員を充てるものであり、小樽市スポーツ推進審議会条例第3条の規定により市長の意見を聴し、同意を得ているところです。

なお、小樽スポーツ少年団本部役員の日登委員につきましては、同本部の役員を退任されることから、このたび審議会委員を辞退したいとの申し出がありました。改めて同本部に後任の推薦依頼をしたものでございますが、少年団活動の縮小、指導者等の高齢化などにより、後任を選任することが難しいとの回答があったものであります。現在、青少年のスポーツ指導者を中心に、人選を進めているところでありますので、後任が決まり次第、議案として提出させていただきたいと考えております。

最後になりますが、委員の任期は2年、期間は令和4年7月18日から令和6年7月17日までとなっております。

御審議のほどよろしく願いいたします。

教育長           本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

佐林委員については、勤務先が札幌に変わられたということで、こちらの会議に出席が叶わないということもあって、辞任の申し出がありました。

井上晃さんを推薦していただきましたので、新たに井上さんを委員に委嘱するということになります。

日登さんについては、後任が今のところ見つからないということで、継続して後任を探していきたいというところでございます。

よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を了承したいと思います。  
続きまして「議案第3号 小樽市奨学生選考委員会委員の委嘱案について」の説明をお願いします。

#### **議案第3号 小樽市奨学生選考委員会委員の委嘱案について**

学校教育支援室主幹（学務担当） 「議案第3号 小樽市奨学生選考委員会委員の委嘱案」について御説明いたします。

今回の委嘱案につきましては、委員のうち学識経験者として小樽市PTA連合会から推薦をいただき委嘱しております廣瀬堅一氏より辞任の願いがあり、同会から後任者として、同会監査の藤井洋氏の推薦がありました。

この推薦に基づき同氏を新たに委嘱するもので、任期は前任者の残任期間である令和6年4月30日までとなります。

新旧名簿は、お手元の資料のとおりです。

以上、御審議のほどよろしく願いいたします。

教育長 それでは本件に関しまして、御質問・御意見等ございますでしょうか。  
先程の学校給食センターの委員と同じ、小樽市PTA連合会の推薦で委嘱させていただいた委員が交代されるということでございますけれども、よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を了承したいと思います。  
続きまして、「議案第4号 小樽市社会教育委員の委嘱案について」説明をお願いします。

#### **議案第4号 小樽市社会教育委員の委嘱案について**

生涯学習課長 「議案第4号 小樽市社会教育委員の委嘱案」について御説明いたします。

この議案を提出いたしましたのは、社会教育法第15条の規定により設置しております、社会教育委員13名のうち、1名の委員に交代がありましたので、この後任を委嘱するためであります。

2枚目の表面が新委員の一覧表、裏面が旧委員の一覧表になっており、交代する委員をゴシック体で表記しております。交代する委員であります、社会教育関係者（文化芸術）の小樽市文化団体協議会推薦、川村治男氏から委員辞任の申し出がありました。

後任として、同会より会長である 大道恒雄氏が推薦されたことから、委嘱を提案するも

のです。

なお、補充の委員のため、任期は前任者の残任期間である令和4年10月3日までとなっております。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

**教育長** 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

小樽市文化団体協議会の川村会長が引退されたということで、会長が交代され、大道さんが後任者として、引継ぎをしたいということです。

よろしいでしょうか。

**各委員** (なし)

**教育長** それでは、本件を了承したいと思います。

続きまして、「報告第1号 第34回おたる運河ロードレース大会の開催結果について」説明をお願いします。

#### **報告第1号 第34回おたる運河ロードレース大会の開催結果について**

**生涯スポーツ課長** 「報告第1号 第34回おたる運河ロードレース大会の開催結果について」報告します。

去る6月19日に第34回おたる運河ロードレース大会が3年ぶりに開催されました。

当日は、教育委員の皆様には、お暑い中、朝早くからお昼ごろまで長時間にわたり御臨席を賜り、表彰式のプレゼンターなどをお勤めいただきまして、誠にありがとうございました。

お手元の資料では、本大会につきまして、申込状況、完走者数の状況を種目別に記載しております。

まず、報告第4号①の開催結果を御覧ください。本大会の申込時期が、春休み明けで感染者が増えていた時期と重なったことや、ゴールデンウィーク明けの感染者増加も懸念されていたことなどから、出足が非常に鈍く、ゴールデンウィーク前の申込者が700名程度という危機的な状況でありました。急きょエントリー期間を1週間延長し、ゲストランナー決定の告知と合わせてホームページや報道機関、ランニング愛好家が閲覧するサイトなどに情報提供を行い、例年になく集客には苦戦しましたものの、この時期としては上々の1,680人の申込をいただいたところです。しかしながら、3年前の前回大会の申込者数2,435人と比較しますと、755名の減少となっており、実行委員会の会計も非常に厳しいものとなりました。

当日の完走者は1,527名、完走率は申込比で90.9%となっておりますが、これは当日参加されなかった方も含めた数字でございますので、実質的な完走率は数%高いものと推測されます。3年前の前回の完走者は1,800名、完走率は申込比で73.9%でしたので、当日の天候に助けられ、大雨だった前回大会より参加率や完走率も高かったところがあります。

中段には、当日の天候の状況を記載しております。気象庁発表のデータでは当日はくもり模様、大会開催中の気温は最高で22.6℃となっておりますが、体感的には当日は晴れ、気温は25℃近くあったように感じております。湿度が70%近くあり、風も1m台と弱かったことから、熱中症発生リスクが高かったものであり、熱中症に似た症状を訴え救護テントに運ばれる方や、ゴール付近やコース上で倒れて救急搬送される方などがいらっしゃいましたが、その後、全員と連絡を取り、症状は回復傾向と聞いております。なお、ロードレースに起因した大きな事故等については、現在まで報告されておられません。

下段には、地区別参加申込状況につきまして、記載しておりますので御覧ください。

小樽市民の参加は昨年に比べ324名減少し589名で35.1%となっております。札幌市からの参加につきましては、昨年に比べ303名減少し784名で46.7%となっております。小樽、札幌以外の道内からの参加は256名で15.2%、道外からの参加は51名で3.0%となっております。前回大会と概ね同じ傾向ですが、若干、札幌や道内からの参加者の割合が増えたところであります。

次に、報告第4号②の競技結果を御覧ください。年齢・性別で分類した18部門の3位までの入賞者を記載しており、5km女子中学校の部では、西陵中学校の田中さんが優勝、2km男子の部では朝里小学校の梅田くんが優勝したところであります。その他の結果につきましては、後ほどゆっくり御覧いただければと存じます。

大会終了後には大塚製薬陸上競技部の河野監督、ゲストランナーの伊藤・川内両選手によるランニングクリニックを開催し、小学校低学年の児童を中心に10名の参加がありました。既に多くの方が帰路につかれたタイミングで、もう少し早く開催しておけばという反省はございましたが、河野監督にランニングのコツを御指導いただきました。クリニック終了後には伊藤・川内両選手と記念撮影をしたり、大塚製薬からおみやげをいただいたり、少ないながらも参加者には御満足いただけたと思います。

3年ぶりのロードレースということや、市内のイベントとしては最大範囲で交通規制を行うこともあり、大会当日には交通規制を中心に多くの苦情が寄せられたところであり、事務局の運営方法についても反省点はあったところでもありますので、今後、とりまとめを行い、実行委員会の競技財務合同部会を開催して協議していくこととしております。

報告は、以上であります。

**教育長** 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

**荒田委員** ランニングクリニックについて、第一線で活躍されている方の30分ぐらいの講座だったと思うんですけど、告知を上手くしてもう少したくさんの方に参加していただければ良かったのかなと思いました。

それと質問なんですけど、参加者の確保に苦勞されて、ゴールデンウィーク前後のコロナの感染状況も踏まえながら、募集を様々な媒体に発信するなどして行ったとお聞きしたんですけど、ハーフマラソンがあるとかかなり人気があると思うんですけど、30回以来開催がないんですけど、ハーフマラソンの再開は検討されたりしていますか。

**生涯スポーツ課長** 34回大会の実施にあたって、財務競技部会を今年1月に開催したんですが、その時に私共としてもハーフマラソン案みたいなものをお出しをした経緯がございます。

1つは、ぐるっと、祝津方面、長橋の方を經由して周回して祝津の方から従来のコースに戻るようなコースと、10kmコース×2みたいな周回案みたいなお話しがございました。

周回案については、財務競技部会で否決されて、長橋の方から祝津を抜けるハーフコースについては、引き続き検討ということで4月の実行委員会のときに再度お諮りをしたという状況であります。

結論を申し上げますと、コロナウイルスの関係で開催が微妙な感じでもあったり、リスクがかなりあるという状況で、ハーフにしますと、警備・ボランティアの数が簡単にいうと倍に膨れ上がるだろうということになりまして、リスクだったりコストを考えますと、今回の大会では難しいだろうということでハーフをやめた経緯がございます。

来年以降につきましても、引き続き検討していくつもりですが、人材不足の中で警備員の人材の確保が難しくなっているということと、ボランティアの数が、前回だと540名ぐらいいたんですけども、今回420名でやっております。従来ボランティアを出していただいていたところも出せなかったりという状況でございますから、そういった部分の人員確保であったり、安全の確保を最優先に考えつつも、ハーフマラソンの再開につきましては検討して参りたいというふうに考えております。

**教育長** よろしいでしょうか。

**荒田委員** はい。

**教育長** 警察から高島・祝津方面の道路の狭隘の関係もあって、交通安全上芳しくないということで、再検討せよというお話がありました。

そういうことで、コースの変更も含めて協議を進めましたが、なかなか良い案が固まらないとか、その案を出したとしても、また警察の許可が必要になりますので、なかなかスムーズにはいかないのかなと思っていますけど、参加者のことを考えますと、早くハーフのコース設定をできるのが望ましいと考えていますので、今後も継続検討ということで進めていきたいと思っています。

救急搬送された人達はすぐ回復したんですか。

**生涯スポーツ課長** 本部テントから搬送された方が一番重篤の方で、主催者で用意していた救急車で、搬送できなくて、119で対応しました。翌日に退院されてまして、本人とお話ししたのですが、まだ調子が良くなって、仕事を1日休んでいるということでしたが、また確認したら大丈夫ですということでした。

**教育長** 原因はなんだったのですか。熱中症ですか。

**生涯スポーツ課長** そうです。熱中症の症状を訴えた方が6名ぐらいいて、転んだ方も熱中症が原因

じゃないかなと思われます。

教育長 他にございませんか。

各委員 (なし)

教育長 よろしいですか。

それでは、本件を終了いたします。

続きまして、「報告第2号 小樽市文化芸術審議会委員の委嘱について」説明をお願いします。

### **報告第2号 小樽市文化芸術審議会委員の委嘱について**

生涯学習課長 「報告第2号 小樽市文化芸術審議会委員の委嘱」について御説明いたします。

小樽市文化芸術審議会委員については、小樽市文化芸術振興条例第19条の規定により市長の附属機関として設置しております。

現委員は本年6月30日をもって任期が満了となり、新たな委員については、令和4年7月1日から令和6年6月30日までの2年間、委員を委嘱いたします。

資料の表面が新委員の一覧表、裏面が旧委員の一覧表になっており、交代する委員をゴシック体で表記しております。

委員の委嘱においては、まず学識経験者につきましては、関係機関から推薦をいただいておりますが、交代する委員については、小樽市校長会からの推薦である事務局長の伊藤仁弥氏、小樽市文化団体協議会からの推薦である会長の大道恒雄氏、小樽市美術展覧会運営委員会からの推薦である委員長長の福原幸喜氏の3名が今回新任となり、その他は再任となりました。

また、市民公募委員につきましては、公募要綱に基づき、1回に限り再任することができることとしており、2名の委員に確認したところ、再任を希望したため、再度委嘱いたします。

以上、委員名簿の9名に小樽市文化芸術審議会委員を委嘱することを御報告いたします。

教育長 ただ今の報告に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

それぞれの団体から改めて推薦があった方々でございます。

よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を了承したいと思います。

続きまして、「報告第3号 公立高等学校配置計画案(令和5年度(2023年度)～7年度(2025年度))及び令和5年度(2023年度)公立特別支援学校配置計画案について」



説明をお願いします。

**報告第3号 公立高等学校配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））及び  
令和5年度（2023年度）公立特別支援学校配置計画案について**

学校教育支援室主幹（学務担当） 「報告第3号 公立高等学校配置計画案（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））及び令和5年度（2023年度）公立特別支援学校配置計画案について」御報告いたします。

これらは今月7日に道教委が示したものです。

はじめに、公立高等学校配置計画案について御説明します。報告第3号②「公立高等学校配置計画案」の15ページを御覧ください。令和3年に道教委が決定した計画と変わらず、来年度、令和5年度に小樽潮陵を1間口減とすることが示されております。令和6年度及び令和7年度の後志学区では、学級増減の計画案は示されておられません。

なお、令和5年度に表示があります、余市紅志と岩内の2校については、今年の入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じたことから、今年度1学級減としており、令和5年度の募集学級数については、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、昨年は9月でしたが、今年の計画決定時に公表されることとなっております。

計画案の15ページの表、上段には、後志学区内と小樽市内の中学校卒業生数の推計が示されており、令和8年から11年までの中卒者につきましては、令和7年の卒業生数推計を基準といたしますと、後志学区内では109人、市内では86人の減少が見込まれております。

このため、後志学区においては令和8年度から令和11年度までの見通しとして、欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、小樽市内において定員調整の検討が必要などと示されております。また、定時制課程についても、市内には小樽潮陵と小樽未来創造の2校ありますが、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要と示されております。

次に、北海道全体について御説明いたします。

5ページを御覧ください。(2)学級増減の①学級増では、令和7年度に空知南学区の岩見沢緑陵が1増の計画となっております。これは、次の6ページになりますが、(3)再編整備の①再編統合の令和7年度、空知南学区に示されています岩見沢東と岩見沢西を再編統合し、新設校を設置する計画と連動しており、学区における学校・学科の配置状況、生徒の進路動向などを総合的に勘案し、再編に併せて岩見沢緑陵で1学級の増を行うものとなっております。

また、再編統合で申しますと、上川南学区において富良野と富良野緑峰を再編統合し、新設校を設置する計画も示されております。

次に、6ページ上段にある、②学級減では、令和7年度に空知北学区の深川東、胆振西学区の室蘭工業の計2校において2学級を減ずる計画案が示されております。

次に、7ページを御覧ください。(3)再編整備の②募集停止ですが、令和7年度に胆振東学区の穂別が、今回の計画案において示されております。

次に、特別支援学校の配置計画案について御説明します。

報告第3号③「公立特別支援学校配置計画案」の3ページを御覧ください。市内には、特別支援学校が2校あり、3ページの中段の表にある高等聾学校、下段の表の下から2つ目にある小樽高等支援学校のいずれも、令和4年度と令和5年度の学級数・定員に増減がない計画案となっております。

また、7ページを御覧ください。知的障害特別支援学校高等部の職業学科等の配置の今後の見通しとして、小樽高等支援学校が含まれます道央地区について、令和6年度に2学級相当の確保を検討すること、さらに欄外注釈には、道央圏については、さらに数年後、出願者数の増加が見込まれるため、既存施設等の活用による対応を検討する必要があるとのことが示されております。

報告は、以上でございます。

## 教育長

ただ今の報告に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

2年前に決定しておりました、小樽潮陵の間口が来年度減るかたちになるということで、生徒数が減っていますので、やむを得ないという一面もあるものの、なかなか当事者としては、選択肢が狭まってしまうこともあって厳しい状況となるため、これまでも意見を申し上げてきましたが、決定されている事項になりますので、やむを得ないというふうに思います。

ただ、今後も生徒数の減少が続きますので、今回も先程説明がありましたけど、空知南学区の岩見沢、上川南学区の富良野の統廃合をしていくことは、将来的に避けられない。本市もそういう状況になるのかなということで、非常に危機感をもっております。

将来的には市内の高校の在り方について私学も含めて、どうしていくのか私共の方でも議論していく必要があるのかなと思っております。そういう状況で、将来にわたって検討が必要になってくるのかなと思います。

一応道教委では、適正な学級数は4～8学級ということとしておりますので、どこかの時点でそれが確保できないということになってくると、再編に向けての検討が着手されることになります。

定時制課程が今2校ありますけど、未来創造高校は今年10名以上の入学者があったわけですけど、潮陵高校が今年も10名を切って5年連続ぐらいになるので、来年あたりの適正配置計画の中では、再編の検討を道教委が行うという可能性が出てきます。

私共としては、様々な子ども達がいる中で、非常に大切な役割を持っており最後のセーフティネットになると思っておりますので、これからも道教委には言い続けていきたいと思っております。

そういうルールの中で、3年連続10名を切った場合は定時制とは言え、再編の対象としますということなので、来年あたり議論されるのかなと思っております。

何か御意見等ございますでしょうか。

## 小澤委員

15ページの後志学区高校配置計画案で、小樽潮陵の欠員が-1になっているということは、前年度は欠員ではなかったということですか。

教育長        そうです。定員より1名多くとっています。

小澤委員      そうすると、先程岩見沢での説明にもあったように、1校1校ではなくて、小樽潮陵と小樽桜陽の普通科高校の間口と生徒数の減少の関わりで、今後の方向が決まってくるということですか。

教育長        どういうふうにするかですよ。普通科の高校として単独で閉校とするのか、職業科と普通科の富良野方式みたいな感じにするのか、それとも岩見沢のように普通科同士統合して普通科高校にするのか。

色々考え方はあろうかと思いますが、常識的に考えると、普通科を普通科の学校にしていくというのが一番多い。校舎の整備の関係もありますし、色んな意味でなかなか難しい部分もあるんですけど、それが普通の再編の進め方になっているようです。ですから、多いパターンは潮陵と桜陽を一緒にして、学級数を確保する。あるいは未来創造と水産高校を一緒にして職業科の学校にするという方法があるかもしれません。それぞれ専用の校舎をもっていますから、簡単にいくかどうか。ここも商業高校の校舎でしたが、工業高校と一緒になると、工業の設備、施設の方がずっと大きいですから、そちらの方に移転していったというかたちです。工業科の施設を確保するにはさうとう大きい施設が必要になってきますので、工業高校の校舎を使うことになりました。そういうことも将来的には十分考えられますよね。

今小樽市内で生まれてきているお子さんたちは400名代ですから、それを考えると今この2校で400名を超えるわけです。その分しか必要なくなるというのを単純な計算上はそうなりますよね。

小樽市内には現在公立高校は4校、私立高校は3校ありますので、そこの兼ね合いで公私比率をもって調整していくことになってますから、私学の経営も大変ですし、公立の学級維持も大変になるかと思えます。

こういう問題は必ずやってきますので、そういうときは大きな議論になってくると思います。

小澤委員      わかりました。

教育長        他にございませんでしょうか。

各委員        (なし)

教育長        よろしいでしょうか。

それでは、本件を終了いたします。

続きまして、「報告第5号 2022小樽市制100周年記念事業「画家と娘—岸田劉生<麗子>とともに」について」説明をお願いします。

**報告第5号 2022小樽市制100周年記念事業「画家と娘—岸田劉生<麗子>とともに」について**

**美術館主幹** 「報告第5号 2022小樽市制100周年記念事業「画家と娘—岸田劉生<麗子>とともに」について」御説明いたします。

事業名は、美術館特別展「画家と娘—岸田劉生<麗子>とともに」で、7月16日に開幕いたします。

日本の近代洋画でもっとも重要な画家といわれる岸田劉生を、一堂にそろえた展覧会は、道央圏では初めての開催となり、市政施行100年を迎える小樽市の周年行事としてふさわしいものです。

小樽は北海道で油絵がいち早く定着した場所で、岸田劉生と同じく春陽会の創立に携わった画家に、長谷川昇、山崎省三がおり、その後三浦鮮治・兼平英示兄弟も出品を続け、北海道画壇を牽引していきました。本展は岸田劉生の38年という短い生涯を辿り、大正・昭和初期の近代洋画の魅力に触れていただくというものです。

似鳥美術館との相互割引制度の導入や、関連事業として4回連続のアートレクチャーも実施いたします。

当館は昨年、外壁改修工事が完成し、改修後の大規模な特別展として、多くの来場が期待できるものです。本展は、日本的な視野に立って、地域の文化芸術活動を再び活性化させるための重要な展覧会となります。

以上、御報告いたします。

**教育長** 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。  
北海道では、こういう岸田劉生の展覧会は初めてになるんですか。

**美術館主幹** 札幌を含めた道央圏では初めてです。  
函館ですとかではなさってはいますけど。

**教育長** 岸田劉生の作品は何点ぐらいあるんですか。

**美術館主幹** チランには50と書いたんですけど、細かくカウントしますと83点で、それに加えて小樽の大正・昭和の画家たちを合わせますと20点ありますので、100点を越える規模になり、1階と2階で展示いたします。

**教育長** かなり多くの方に見ていただけるような大きな展覧会になりそうですかね。

**美術館主幹** そう思っております。

**教育長** これだけの大きな展覧会は、なかなか小樽でも滅多に出来ない展覧会なので、我々も期待していますので、教育委員の皆様にも見ていただくとともに、PRしていただければと思いますのでよろしく御願いたします。

ニトリ美術館にも岸田劉生の作品がいくつかありますが、コラボみたいなのはやるんですか。

**美術館主幹** はい。お互いチケットで2割引という相互割引制度です。

**教育長** 大きい金額になりますからね。  
他にございますか。

**常見委員** アートレクチャーは何人ぐらい入れるんですか。

**美術館主幹** 展示室で行うことを想定していますので、20人ぐらいですね。

**教育長** 他にございますか。

**各委員** (なし)

**教育長** よろしいでしょうか。  
準備が大変かと思いますが、よろしく願いいたします。  
それでは、本件を終了させていただきます。  
続きまして、その他の報告で、「寄附採納について」説明をお願いします。

#### **その他 寄附採納について**

**教育総務課総務係長** 寄附が3件ありましたので、御報告いたします。

1件目は、匿名の方から美術館に150万円を御寄附いただきました。この方は、子育て部門にも150万の御寄附をしており、小樽市としては300万円の御寄附をいただいたこととなります。今後、美術館の運営のために使用させていただきます。

2件目は、志和裕様から、小樽市交通災害遺児奨学資金基金に1万円を御寄附いただきました。志和様からは平成12年より御寄附をいただいております、先月に引き続き今回で25回目、総額は30万円となります。

3件目は、村井雅博様から小樽市奨学資金基金に10万円を御寄附いただきました。以前から奨学資金基金に多額の御寄附をいただいていた国際ソロプチミストの元会長でもあります村井瑞子様が無くなられ、その遺志を引き継ぎ今回、御寄附されたものです。

報告は以上です。

**教育長** 本件に関しまして、御質問等ございましたらお願いします。

高額の御寄附をいただいた方もいらっしゃいます。

匿名の方も含めて非常にありがたい御寄附ですので、大切にに使わせていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。  
それでは、1時間経ちましたので、5分間休憩をさせていただきます。

<5分休憩>

教育長 それでは、議事を再開いたします。ただ今から非公開の審議に入りますので、報道関係者及び傍聴者の皆様には御退席をお願いいたします。

<非公開の審議開始>

#### **協議第1号 おたるスマート7について**

学校教育支援室主幹（生徒指導・特別支援担当）から、「おたるスマート7について」説明し、小澤委員、常見委員、黒田委員から意見があったほか、全委員により協議した。

#### **報告第4号 新型コロナウイルス感染症に係る今後の対応について**

学校教育支援室主幹（学務担当）、学校教育支援室主幹（生徒指導・特別支援担当）から、「新型コロナウイルス感染症に係る今後の対応について」説明し、小澤委員から意見、荒田委員から質問があったほか、全委員により了承した。

<非公開の審議終了>

教育長 以上で、教育委員会第6回定例会を閉会いたします。